

一般社団法人日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 71 回 リサイクル燃料貯蔵分科会 (F4SC) 議事録

1. 日時 2025 年 6 月 19 日 (木) 13:30～16:30
2. 場所 TNT (新橋) 3F 会議室及び Webex によるオンライン会議
3. 出席者 (順不同、敬称略)
(出席委員) 木倉 (主査)、浅見 (副主査)、白井 (幹事)、市橋、岡部 (海老原代理)、島、清水、堂守、
藤沢、樋口、松本 (務)、渡邊、亘 (13 名)
(欠席委員) 高橋 (淳)、山田、山根 (3 名)
(出席常時参加者) 石川、大岩、広瀬 (3 名)
(欠席常時参加者) 上良、高橋 (秀)、渡辺 (3 名)
4. 配布資料
配布資料
F4SC71-1 第 70 回リサイクル燃料貯蔵分科会議事録 (案)
F4SC71-2-1 分科会関連人事整理表
F4SC71-2-2 人事について (分科会)
F4SC71-3 (原子燃料サイクル部会報告) 標準制定決議後の誤記の見直しについて
F4SC71-4-1 コンクリートキャスク標準作業会の活動状況について
F4SC71-4-2 コンクリートキャスク標準作業会作業フロー
F4SC71-4-3 コンクリートキャスク標準作業会作業スケジュール
F4SC71-4-4 コンクリートキャスク標準作業会金属ーコンクリートキャスク様態比較
F4SC71-4-5 コンクリートキャスク標準作業会改定必要性アンケート調査への回答整理
F4SC71-5-1 今後の金属キャスク標準作業会の進め方について
F4SC71-5-2 (JAIF 講演会) 使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準 2021 の改定
F4SC71-6 2025 年度倫理教育について
5. 議事
幹事より、開始時の出席者の確認が行われ、決議に必要な委員総数の 2/3 以上の委員数を満足している旨の報告がなされた。
(1) 前回議事録確認
・ 前回議事録 (案) として F4SC71-1 の確認が行われ、コメントなく了承された。

(2) 人事について

- ・ 1名の分科会委員の退任が確認された。
- ・ 1名の分科会常時参加者の解除が確認された。
- ・ 2名のコンクリートキャスク標準作業会委員の選任が承認された。
- ・ 作業会廃止等に伴う作業会委員及び常時参加者の退任・解任が確認された。

(3) 標準委員会/原子燃料サイクル専門部会の活動状況

- ・ 幹事より、金属キャスク標準改定の制定後発刊前の誤記対応について、資料 F4SC71-3 を原子燃料サイクル専門部会にメール報告し、コメントなく了承された旨報告があった。

(4) コンクリートキャスク標準作業会の活動状況について

- ・ 藤沢委員(コンクリートキャスク標準作業会主査)及び亘委員より、F4SC71-4 シリーズに基づき、コンクリートキャスク標準の改定活動状況について説明があった。
 - 次回分科会(10月)でアンケート調査報告に基づく改定項目の抽出を行い、今回改定項目と中長期的改定の区分検討報告を行う。
 - F4SC71-4-4における金属キャスクとの様態比較については、以下の意見があった。
 - ◇ 本資料は、今後附属書等に反映されることを踏まえると、密封の考え方の違いについて丁寧な整理が必要。
 - ◇ 貯蔵中の常時監視(内圧など)について、海外メーカで開発しているところもある。米国以外の国の動きを含めコンクリートキャスクの貯蔵技術調査が参考になる。
 - F4SC71-4-5における貯蔵建屋及び破損燃料の標準での取扱いについては、以下の意見があった。
 - ◇ 2007年度版作成時は、当時の金属キャスク標準に合わせ、貯蔵建屋内に貯蔵とした。現金属キャスク標準が建屋内貯蔵を要件としていないことを踏まえると必ずしも要件として残す必要はない。
 - ◇ 金属キャスクと同等の遮蔽能力とすると、コンクリートの遮蔽厚が3mにもなる試算結果もある。米国より敷地が狭く、線量基準も厳しい我が国では、建屋等の追加遮蔽が必要となる可能性が高い。一方建屋内貯蔵の場合は、散乱により建屋内の線量が高くなるリスクもある。
 - ◇ 金属キャスク標準は、標準の範囲を金属キャスクのみとしており、貯蔵施設全体としていないため、敷地境界線量や外部事象に対する要件は、金属キャスクとそれ以外の施設で分担することとし、金属キャスクだけでは担保できないものは施設側への要求事項としている。建屋ありを要件とせず、同様な整理を行うのがよいのではないか。
 - ◇ 破損燃料は、標準として取り入れるには、貯蔵しても問題ないデータを提示する必

要があり、金属キャスク標準では、中長期的課題としていた。それらデータが提示できない現状を考えると本標準でも中長期的課題にせざるを得ないのではないかと。

(5) 今後の金属キャスク標準作業会の進め方について

- ・ 市橋委員(金属キャスク標準作業会主査)より、F4SC71-5-1 に基づき、次回改定項目についてアンケート調査を行う旨報告があり、以下を対応することになった。
 - 2021 年度版作成時に次回以降の改定項目(中長期的課題)をまとめた資料があるため、それを市橋委員に提供する。
 - アンケートは、回答様式及び期限をつけてメールにて別途送付する。

(6) その他

① 2025 年度倫理教育について

- 幹事より、F4SC71-6 に基づき、今年度の倫理教育について説明があり、受講結果を 7 月 21 日までに分科会幹事に報告することになった。
- 受講結果は、幹事によりまとめられ次回分科会(10 月)で報告予定。

② 金属キャスク標準改定の講習会の取り扱いについて

- 金属キャスク標準改定の講習会については 5 か年計画に「改定事項が限定的であるため実施しない場合がある」と記している。
- 審議の結果、講習会は実施しないことになった。

③ 幹事会メンバーについて

- 作業会1, 4の廃止に伴い、分科会3役及び作業会主査からなる幹事会メンバーについて、追加メンバーの募集を行った。その結果、分科会3役及び作業会主査以外に清水委員、島委員が継続して幹事会メンバーとなることが確認された。

④ 今後の予定

- 次回幹事会 2025 年 9 月 25 日(木) 午後
- 次回分科会 2025 年 10 月 6 日(月) 午後

以 上